

充実の日々、研究の奥深さに感激'



ARISA
YANO

Interview No.004 大学院医学研究科博士課程
病理系免疫学専攻3年 矢野 有紗さん

プロフィール

皮膚科医
矢野 有紗(やの ありさ)

米国ボストン生まれ 29歳 久留米大学医学部医学科卒

医師として働く両親の姿を見て、自然と医師を志すようになる。大学時代は硬式テニス部とJIMSA（英語クラブ）に所属。2013年から聖マリア病院にて初期研修。2015年久留米大学医学部皮膚科学講座に入局。入局と同時に久留米大学大学院医学研究科博士課程へ進学。現在博士課程病理系免疫学専攻3年生。臨床医として勤務しながら研究を続けている。また、ティーチングアシスタントとして学部生の実習等も担当している。

趣味：旅行、料理、ヨガ

後期研修医という早い段階で大学院進学を決められたきっかけを教えてください。

皮膚科には免疫と関係する疾患が多数あります。例えば、治療薬の免疫学的製剤は多種多様ありますが、全て免疫因子を標的としています。疾患や病態の知識はもちろんですが、機序から考える治療が必要になると考え、大学院への進学を決意しました。

実際に大学院に入学されていかがでしょうか？

臨床だけをしていたころとは違い、新たな世界を見ることができ視野が広がりました。早い時期に大学院に進学してよかったです。毎日とても充実した毎日を送っています。

どんな研究をされていますか？

溝口教授の専門である様々な疾患に応用可能である制御性 B 細胞について、遺伝子操作マウスやヒトの検体を用いて研究を行っています。

現在博士課程3年生ですが、研究の進捗状況を教えてください

研究については以前より教授の研究グループの方々が行っていた内容を継続で行わせていただいております。少しずつ論文がまとまりつつあり、つい先週も東京で行われた国際アカデミーに参加し研究発表を行いました。臨床・研究ともに著名な海外の先生方とお話する機会をいただき、「面白い研究だ」と言っていただくことができました。

昨年の研究発表会では、2年生で英語での口頭発表をされ、優秀賞を受賞されました。

研究発表会でのご自身のエピソードがあれば教えてください。

大学院での発表以外にも免疫の学会で口頭発表を行う機会をいただき、いずれも英語での口頭発表でした。私自身、今までは日本語の発表しか経験がなかったので少し緊張しましたが、発表の前にはラボの皆さんに入念な指導をいただき、このような賞をいただくことができました。実際に研究発表会に参加してみると、専門分野が違う大学院生が何の研究をしているかを知る機会になり、楽しかったです。

今後の目標を教えてください。

大学院に入学し、勉強するほど知らないことが出てきて、免疫学や研究の奥深さにとても感激しました。今後も研究に携わり、少しでも医学の世界に貢献できればと思います。

志願者の方に向けたメッセージをお願いします。

最初は右も左もわからない状態で入学しましたが、指導医の先生方のおかげで、とても楽しく充実した日々を送っています。研究は時に苦しいですが、楽しいもの。今は研究ができて幸せで、感謝の気持ちでいっぱいです。少しでも興味がある方は是非、大学院に入学してください。